



# 岐大通 2013

2013 J.League Division2  
第9節 **カタールレ富山 戦**  
4/17(水) 19:00~  
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

FC岐阜大好き通信(岐大通)

4/17号

編集発行:『岐大通』製作委員会

今号の製作担当:

ささたく&吉田鑄造

## 2013J2

順位表 第8節

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	神戸	19p	+8	14	6	A
2	G大阪	14p	+5	13	8	
3	岡山	14p	+3	8	5	
4	長崎	14p	+1	10	9	
5	千葉	13p	+9	13	4	
6	山形	12p	+3	13	10	
7	東京V	11p	+5	9	4	A
8	京都	11p	+4	13	9	H
9	栃木	11p	+2	8	6	
10	愛媛	11p	+2	7	5	A
11	松本	11p	0	10	10	A
12	福岡	11p	0	8	8	
13	富山	11p	0	6	6	
14	徳島	10p	-1	10	11	H
15	鳥取	10p	-2	8	10	
16	水戸	9p	-2	7	9	
17	札幌	9p	-3	8	11	
18	横浜FC	9p	-3	6	9	H
19	北九州	8p	-6	8	14	
20	熊本	7p	-4	7	11	
21	群馬	6p	-9	3	12	H
22	岐阜	5p	-12	2	14	---

today's guest : **カタールレ富山** 2012 J2 9勝 1分 2敗 勝ち点 74 第 19位

1975年創設の北信越リーグの第1回優勝チームであるYKK(YKK AP)と、1990年創部の新興勢力ながら一気に頭角を現した北陸電力(アローズ北陸)は、2008年から合併して『カタールレ富山』になるまでは富山県のサッカーを引っ張る「ライバル」で、天皇杯の富山県予選は県代表制になった第76回(1996年)から合併前年の第87回(2007年)まで12年連続してこの2チームによる決勝戦だった。アローズは2000年に、YKKは翌年にJFL昇格を果たし、全国の舞台でも火花を散らした。『カタールレ富山』は合併初年のJFLで3位となりJ2加盟。最高位は2009年のJ2・13位。(吉田鑄造)

前節・アウェイ松本山雅戦で、ようやく今季初得点、そして劇的な逆転での初勝利を挙げたFC岐阜。本職はCBの#20新井をFWに起用した行徳采配がズバリの中し、新井のヘッド2発で逆転勝利。再び清水から期限付き移籍で加入し、今節から出場した#27FW樋口も勝利に貢献した。残念ながら勝利しても順位は変わらず最下位のままだが、勝ち点はぐっと縮まって、2位とわずか1点差。3点差内は19位まで(3チーム)だが、6点差内には7位まで(15チーム)。それだけに、今節の試合は非常に重要だ。ここで勝つことができれば、最下位脱出は十分に可能だし、大混戦の順位争いに割って入ることができる。そして何より、勝利したとはいっても松本戦はアウェイ。やはり、サポーターはホーム長良川での勝利を見たいのだ。

さて、その今節の対戦相手はカタールレ富山。去年は19位と下位に終わったものの、現在は1位。京都を破り、前節は首位・神戸と互角に戦って引き分けるなどチーム状態は良く、安間監督体制4年目で結果も出てきている。2011年までの「東海北陸ダービー」、2012年からの「Top of 北アルプス」の対戦相手でもあり、通算対戦成績も2勝3分4敗と油断できない相手だ。また、かつて岐阜に3年間在籍(09~11年)していた#18FW西川優大は古巣との対戦に燃えているだろう。しかし西川との対戦に燃えているのは、筑波大からFC岐阜に同期入団した#4DF田中秀人も同じはず。かつて“筑波カルテット”と呼ばれた2人の激しい争いが、試合を一層白熱したものにすることだろう。

今季から23歳以下の選手は(カテゴリーが下のチームに移籍する場合は)移籍期間の制限が撤廃されたこともあり、4/10に清水から#27FW樋口、名古屋から#28MF水野を期限付き移籍で獲得して戦力の補強をしたFC岐阜だが、MF#7地主園秀美は長期リハビリ中、FW#14井上平が右膝手術のため今季絶望など故障者が多く、かなり苦しいチーム事情であることに変わりはない。こんな時だからこそ、チームそしてサポーターも一致団結して、勝利のために最後まで全力を尽くさなくてはならない。それができれば、結果はおのずと付いて来るはずだ。さあ、ホーム長良川で万歳四喝をしようじゃないか。(ささたく)

## 岡田歯科医院

岐阜市加納新本町 1-23  
tel:058-273-8998



本庄工業株式会社  
<http://www.honjp-woodream.com/>

## ALADDIN

何も無い店だけど・・・  
心の花が咲く・・・  
何も無い店だけど・・・  
心癒される・・・  
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

## 次回 HomeGame

第1節 **モンテディオ山形戦**

4/28(日) 13:00

@岐阜メモリアルセンター  
長良川競技場

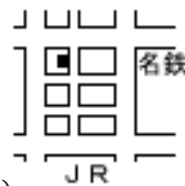
投稿募集!

[gidaidohr@hotmail.co.jp](mailto:gidaidohr@hotmail.co.jp)

「いらっしやいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から  
徒歩3分。

休:火曜(定休日が変わりました!)



## 【第8節】松本 1-2岐阜

祝・初得点！祝・初勝利！いやー、長かった！！ホントに長かった！！...と言いたいところなんだけど、実は初勝利が第8節ってのは、昨シーズンと一緒。第8節までの戦績が1勝2分5敗ってのも、昨シーズンと一緒なのよね（苦笑）。やっぱり7試合連続無得点だったのが（精神的に）効いたのかなあ...。まあそれにしても、勝利は昨年9/23の湘南戦以来、つまりシーズンオフを挟んでたけれど半年以上も勝利に飢えていた訳で、しかも逆転勝ちなんて2011年の11/6岡山戦まで遡らないといけない訳で...そういえば、あのアウェイ戦も前半リードされて、押谷（現・岡山）の劇的な2発で後半に逆転したんだっけ...（しみじみと勝利の余韻に浸る）。

実は個人的には初参戦となったアルウィン。確かにサッカー専用スタジアムだし多くの観客が入って臨場感もあるしスタジアムグルメも豊富だったし良いスタジアムだなとは思っただけど、田んぼの真ん中にポツンと建っていることもあり、風が強いなのって（この季節は風が強いらしい。録画で確認すると最大風速11m?って言うていた）。しかも一方方向（ホーム アウェイ）に激しく吹いてるものだから、松本サポ側のゴール裏は比較的風が弱いけれど、岐阜サポの方は強風に曝され続けるという、とびきりの「アウェイの洗礼」...（苦笑）。

失点は、その強風による不運なものだった。それまで岐阜は（風に苦労しながらも）良い形で守備はできていたし、ボールや相手選手への寄せも良かったのに、前半終了間際の4分、左サイドから松本の#16MF 鐵戸がフワリと上げたクロスが風に乗って流され、そのままゴールネットに...。悔しいかな、#31G K時久の手も届かなかった。しかし、不運な失点だって事を選手たちもわかっていたのだろう。これまでの試合だと、ここで下を向いてしまうような雰囲気になってしまっていたが、今日は違った。後半キックオフと同時に#10MF 美尾がセンターサークルからロングシュートに「絶対に点を獲る！」という気迫が僕らにも伝わってきた。

で、後半25分に#20新井が出てくる訳だけど...正直、最初は（180cmと上背もあるし、何より本職FWなので）パツと見て#18FW 杉本が投入されるんだなと思った。それが「#20..へ？新井？」と驚いて、でもすぐに「ああ、それじゃCBに入れて#19益山を前に出さなんだな」。でも、新井が前戦に...「へ？『大作戦（パワープレイ）』？」と再びビックリ。でも、この大胆な奇襲戦法が完全に的中。後半34分、左サイドから#11MF 染矢が上げたクロス（これも良いクロスだった）に、相手DFを（競り勝つというレベルでなく）フワリと置き去りにして跳んだ新井の上半身がはっきりと見え、そして打点の高い、しかも威力があるヘッドがゴール右隅に突き刺さり...岐阜サポ待望の、歓喜の瞬間がやってきた。ゴール裏は、もうもみくちゃ（笑）。まだ試合が終わってないのに、誰彼構わずハイタッチし、ハグし、喜びを分かち合う。そしてそして、わずか5分後の後半39分、同じく左サイドからの染矢のクロスに、ニアで#6MF ハットさんがDFのマークを引き連れて潰れ（これも、ずっとボールを目で追いながら避けるという、大ベテランならではの味のあるプレーでした）、その空いたスペースに、DFを引きずりながら新井が飛び込んできて、ヘッドで押し込み、逆転ゴール!!! ええ、ゴール裏は見事な歓喜のナダレを起こしてました。ちなみに、ピッチ内でも選手がナダレてましたね（笑）。ATタイム含めて含めて残り時間10分の、なんと長かったこと。祈る気持ちでゆっくりと時間が過ぎてゆき、そして、主審の笛が...。やっと掴んだ勝利。歓喜の雄叫びをあげる岐阜サポに対し、

静まりかえる9000人以上の松本サポ。大観衆のアウェイでスタジアムに響く岐阜サポの凱歌。これがあるから、アウェイ遠征は（も）やめられない（笑）。

新井は、（昨シーズンはグランパスから期限付き移籍で途中加入したものの）3試合出場で骨折してしまい、つらいリハビリをしていたと思うけれど、復帰戦で2得点の大活躍。名古屋は（元日本代表のあの方を筆頭に）CBの方がFWよりも得点を獲るような練習してるんじゃないのか？（笑）染矢は左サイドを制圧して2アシストと良い仕事をし、時久も（不運な失点はあったけれど）スーパーセーブでそれ以降の失点を防いでくれた。他の選手もいっぱい讃えたいけれど、あと1人、やっぱり#27FW 樋口！少し前に「今のウチに足りない選手は樋口だよな」って話を仲間としていて、それが本当にチームに戻ってきてくれて、それでいきなりチームの勝利に貢献してくれた。樋口が前線でボールを収めたり、あるいは前に突進することで、いい攻撃の形ができていたように思う。本当は自分でゴールを決めたかったんだと思うけど、次の試合で是非とも決めて欲しい。

岐阜ではかなり葉桜になってしまったけれど、松本はやっと桜が満開の季節だった。その風景に、やっとチームにも春が来たような、そんな思いが重なった。でも、まだまだこれから。岐阜サポってのは、我慢強いけれど満足もしない生き物でして（苦笑）。ゴールも、勝利も、万歳四唱も、何度したって飽き足りない。特にホームで勝ちたい。選手たちには今後も全力で最後まで戦って欲しい。僕も、全力で声援を送り続けますよ！（ささたく）

それはアディショナルタイムの4分が過ぎ、この日大活躍の樋口が心憎いボール・キープで相手DFのファウルを誘い、主審が警告を出した直後に訪れた。積もり積もった感情のほとばしり。歓喜の爆発。敵地アルウィンのほとんどが凍りついたように静まり返る中、わずかなスペースだけが堰から溢れた奔流のように激しく揺れ動いていた。声にならない声、はじける笑顔、潤む目と目。まさに興奮のつぼがそこにはあった。試合が終わってスタジアムを後にする時にも残る余韻。かくも甘美な陶酔感。2013年の4月15日。この日、世界でいちばん幸せだったのはボくら岐阜サポだったと断言できる。異論は認めない（笑）。

それにしても、ゴールに感情を爆発させ、勝利を味わい、仲間と喜びを分かち合うためには、これほどまでに長い長い時間が必要なのだろうか。逆に言えば、ここまで耐えに耐えた岐阜サポだからこそ、あれほどの歓喜に浸れたのかもしれない。勝ちに慣れてる上位のクラブのサポさんたちには味わえないよな、と冗談のひとつも言いたい気分（苦笑）いったい、どれほど待たされたのか？岐阜を応援するみなさんならご存知ですよ？昨年、メドウでの湘南戦以来の勝利です。9月23日ですよ？。ほぼ7か月ぶりの味わいです。そして、アウェイでの勝利は同じく昨年6月のフクアリ・千葉戦以来。逆転勝利に至っては、一昨年11月の岡山戦以来でした。ホントによく耐えましたよね？>ボくら（苦笑）。

そんな岐阜サポの感動を、さらに増幅してくれたのが松本戦という設定。アウェイで約一万人の観客。9割5分が松本サポ。同じカラーのクラブ。昨季は2戦2敗。2試合とも無得点。今季ホーム未勝利だから、その上に行く未勝利無得点の最下位相手になんとか勝とうとしているホームチームに後半、それも終了間際の逆転勝利！こんなサイコーのシチュエーションはないでしょう？みごとに黙らせてやりましたよ！向こうのゴール裏は挨拶に来た選手にブーイングです。こんなこと書くのはあんまりホメられたこ



とじゃないと思うけど、あのブーイングは本当に気持ちよかった(爆)。いや、こんな感想を持つようではヒトとしてどうかと思いますが。

そして、喜びを増幅させる要因がもう一つ。これはあくまで個人としての意見ですけど、アノ反町氏が率いるチームに初勝利!もう、本当に溜飲の下がる思いです。岐阜がJに参入して以来、一昨年までの湘南、昨季の松本と彼の率いるチームには引き分けがやっと。昨季初めて湘南に勝ったのは前述のとおりですが、その時の監督は彼ではなかった。どうして、こんなに反町氏にこだわるのかというと、彼はウチに勝つたび試合後のインタビューでボクの感情、敗戦にうちひしがれる心を逆なでするようなコメントを連発してくれたから(苦笑)その最たるものが一昨年のアウェイ・湘南戦。1-7と岐阜が大敗した時の彼のコメント「岐阜の方がいいサッカーをしていた」は、おそらく生涯忘れることはないでしょう。だからこそ、彼には試合後に「負けたけど、ちゃんとサッカーしてたのはウチの方」ぐらいは言ってほしかったなあ~、と。今度は長良川でも熨斗を付けて借りを返し、彼のコメントを待ちたいと思います。まあ、そんなちっちゃなことはどうでもいいですネ(笑)。

そんなことより、この試合には多くの岐阜サポが駆けつけました。日曜日の午後1時キックオフ、隣県という設定もあったからでしょう。たくさんの仲間が、その瞬間に立ち会いました。ただ、それでも、まだアウェイ側にはかなりの空席があったのも事実です。なんとというか、ホントにもったいないです。TV観戦でも感動は味わえますが、やはり現地での感動と興奮は何物にも代えがたいものがあります。それがライブの醍醐味ではないでしょうか?クラブやスポンサー様が企画したツアーもほんの少し人数が届かず催行を中止したとも聞いています。もちろん、「現地組が勝ち組」などという気持ちは毛頭ありません。心ならずも参戦できない理由があるでしょうし、観戦はホームのみと決めておられる方もいるでしょう。もとより、アウェイでの勝利は約束されていません。そうでないことの方が多い。それが今の岐阜の現状です。それでも、「負けると決められている」試合など一つとしてありません。選手には現地での声援が聞こえています。それは松本戦のような圧倒的少数の場面の声援でもです。その声が大きくなればなるほど、選手にとっての力になると思います。そして、選手が勝利を勝ち取ってくれば、それはボくらにとって日々の生活への原動力になります。応援するクラブがある。愛する地元プロのチームがある喜び。もっともっとたくさん、存分に堪能したくないですか?まだまだ、これからです。もっと、多くみなさんと喜びを分かち合いたいです。

とはいえ、問題は山積みです。昨季の初勝利は4月15日の北九州戦でした。今季とほぼ同じです。でも、同じでいいのでしょうか?このままでは昨季の二の舞、もしくは最下位からの浮上が困難なままです。なぜ、こんな状況になっているのでしょうか?

いろいろ思うことはあります。この紙面で投稿するかもしれませんが、いろんな場所で意見を述べるかもしれません。待ちに待った今季初勝利ですが、その得点はDF登録の新井が挙げたもの。彼のJ初ゴールには心底感謝しているし、おめでとと何度でも言いたいです。でも、あの起用はギャンプルです。言い方に問題はありますが、博奕がハマっただけ。いわゆる「大作戦」と言われる策ですが、岐阜ではJ参入後初めての成功例だと思います。過去には、川島を投入した湘南戦で得点しただけという記憶があります。

2-4での敗戦だったと思います。新井自身も昨季に一度試されましたが、全く機能しなかった。それが、松本戦では奇跡的な成功。それも2得点。オマケに終了15分前からの大逆転。たぶん、数年に一度の出来事だと言ったら言い過ぎでしょうか?こんな起用は、本来ここ一番にとるべき戦術です。それは優勝がかかっている試合、あるいは昇格・降格が決まる試合でどうしても勝たなければいけない時、1点がほしい時などに限られると思います。なぜなら、それは監督が掲げる戦略、そして、そのために普段から選手が取り組んでいる練習とはかけ離れていると思うからです。何のためのポジションなのか?何のための練習なのか?それを考えると、松本戦は非常にピミョーなものになってきます。あの試合は、ある意味背水の陣でした。だからこそFW新井だったのでしょうか。ただ、この起用に対し、ベンチにいたFWの2人は何を思ったか?平が今季絶望とも噂される中、期限付き移籍の樋口が即スタメン起用でした。中島、杉本両選手のさらなる奮起を切望しています。併せて、新井の本来のポジションであるCBでの出場にも期待しています。レベルの高いスタメン争いを願っています。日曜日の一勝はホントに大きな一勝でした。あの感動を知ったらもう逃げられない。そんな感じです。でも、それでおしまいというワケにはいきません。たった一勝です。これからです。こんなもんじゃないはずです。選手の活躍と勝利を信じて、これからもできる限り現地で応援していきます。まずは、富山に勝ちましょう!(ぐん、)

## 【第7節】岐阜0-3京都

二ワトリが先か、卵が先か。古くからある命題をあてはめて考え込みたくなるような試合。「勝利が先か。自信が先か。」それでも、岐阜はよく戦った。結果としては3-0も妥当かな?と思わざるを得ないが、前半をスコアレスで折り返すのは、ある意味プラン通りだったのではないか。そして、後半も先制されるまでは本当によく耐えしのいだと思う。思うが、先制された途端気持ちがしばむというか、下を向くというか……。それは、試合後の京都の監督のコメントを待つまでもなく、現場に居合わせた人には感じ取れたのではないか。逆に、見ている側のそういう感じが選手に伝わってしまったのかもしれない。

さらにそういう雰囲気追い打ちをかけるように、なんとか、同点に。勝ち点を1でも、という気持ちで切られたハズの交替のカードが効果を発揮するどころか、まったく役目を果たせない。いや、どういう役目だったのかもわからないまま消えてしまう。恥ずかしながら、ファビオがいついなくなったのか、ボクはまったく覚えていない。そんなに試合に集中できていなかったのだろうか?と恥ずかしくなる。でも、レモスが出てきたことは覚えているんだ(苦笑)。

選手はよくやったと思う。新もシュンもがんばったし、司もあまり経験のないであろうCBというポジションでも奮闘していた。それはわかる。だが、プレーの一つ一つに歯がゆい思いがするのは否めない。なんで、そこでシュートしない?どうして、フリーなのに明日どころか、一年前の方向へ飛んでいくようなクロスが上がるのか?思いやりの感じられないパスやラン。やっぱり、焦っているのかな?苛立っているのかな?自信を無くしかけているのかもしれない。

そんな今だからこそ、応援しなきゃと思う。自分にはそれしかできない。歓喜の瞬間がいつか訪れることを信じ願って、とりあえず松本に行ってきます!(ぐん、)

## 【ユース】G1リーグ、始まりました！

いよいよ開幕したG1リーグの第1節、各務原スポーツ広場で行われたFC岐阜U-18の試合を観戦してきました。FC岐阜U-18は昨季のG2リーグから昇格し、今季からはG1リーグへと戦いの場を移しました。中京、各務原、大垣工業、岐阜工業、帝京大可児（Bチーム）、関商工、大垣西、岐阜選抜U-16とFC岐阜U-18の9チームによるリーグ戦で全16節を戦います。

記念すべき第1節の相手は平成24年度新人大会優勝校である各務原高校といういきなりG1の洗礼を受ける事となりました。

試合は序盤こそどちらにもボールが落ち着かずといった感じでしたが、徐々に各務原がボールを持ち始め、FC岐阜U-18が奪ったところでカウンターという流れになりつつありました。体格差も相当あり、競り合えばほとんど各務原ボールとなり、何度となくGKの好セーブとポストに救われながらも前半はスコアレスで折り返しました。ただ、FC岐阜U-18の鋭いカウンターもあと一步のところまで行きながらラストパスが精度を欠いたり、ゴール前でシュートではなくパスを選択したりとなかなか流れは掴めませんでした。

後半、ギアを入れてきた各務原に徐々に押し込まれ始めます。FC岐阜U-18が得たCKのこぼれ球を奪われてカウンターを食らい、なんとかクリアしましたがCKを与えてしまいそこで決められてしまい先制点を与えます。ここで切れてしまったのかすぐに右サイドから崩されて失点、その後も同じような展開で立て続けに3失点めを喫してしまいました。そのままフルタイムを迎え、FC岐阜U-18のG1リーグ戦は黒星スタートとなりました。

FC岐阜U-18のカウンターもあと一步だったので、あそこで決まっていれば（勝負に「たられれば」はありませんが...）流れを掴めたかもしれません。ただ体格差は歴然としており、ルーズボールの処理から身体の入れ方やハイボールの競り方にしても流石新人大会優勝の各務原高校って感じでした。

この試合内容からいろんな課題が見えたと思います。まだまだ始まったばかりのリーグ戦、今季から就任した川島眞也コーチと共に将来のFC岐阜を担うU-18の選手たちが大きくなっていくのを見守りたいと思いました。

ここでクラブにお願いします。既にシーズンも始まりました。今だ（1日現在）公式サイト、アカデミーのU-18 U-15コーナーは準備中です。せっかく応援に行っても背番号も名前すらわからずに応援するのはいかなものでしょうか...ご対応の程どうぞよろしく願いいたします。（秀麻呂）

G1リーグと同時平行でクラブユース選手権の東海予選も始まっています。こちらのFC岐阜ユースU-18（以下FC岐阜ユース）の初戦は4月21日（日）のHonda FC戦、次戦は4月28日（日）の尾張クラブ戦となります。初戦で戦うHonda FCは一昨年ユースチームの廃止を打ち出したので、在籍が3年生だけになる今年は出場してこれないかも？と心配していましたが、今年も無事出場して来てくれました。このこと自体は個人的にはとても嬉しいです。去年のクラブユース選手権での対戦成績は予選リーグは1対1の引分け、2次トーナメントでは1対2の敗戦で通算成績はFC岐阜ユースの1分1敗です。相手は最後のクラブユース選手権でもあり、気合十分で来るでしょう。でも今年勝つのは君達FC岐阜ユースだぜ！

頑張れよ！応援しているから！！FORZA！FC岐阜ユース！！（シュナ）

## 【セカンド】天皇杯 / 全社県予選

トップチームが松本アルウィンで今季初得点 / 今季初勝利 / 一昨年秋以来の逆転勝利を挙げたその日、飛騨・杉崎のサッカー場（多目的広場）にFC岐阜セカンド（以下「セカンド」）の天皇杯 / 全社の県予選を観に行ってきた。

毎年社会人リーグが始まる前に行われるこの大会、上位2チームが夏の全社東海予選と秋の岐阜県選手権（天皇杯県最終予選）に出場します。セカンドは初戦を1-0で勝利して、この日は2010年創部で「毎年カテゴリーを上げている」という話の、今年は岐阜地区1部でプレーする真正FCでした。

試合は、15-0とセカンドの超圧勝（あれ？FC岐阜公式サイトだと14-0になっている。最初から最後まで見てちゃんと数えたんだけどなあ.....。ノーゴールがあったかな？）。でも、これだけの得点差ですが「大味な試合ではなかった」ことはしっかりお伝えしたい。その要因は、両チームの、特に真正FCの『試合に臨む心構え』でした。

岐阜地区1部とは、J1から数えると「8部」になります。一方のセカンドは「4部」。これだけカテゴリーに差があると試合は一方的になります。ならないとおかしい。それでも、まずはセカンドが「アタマからガツーンと行って得点差をつけてしまい後はケガしないように流す」というサッカーをしなかった。前半は3-0でしたが、基本的にはパスワークで相手を振り回し続けた。隙をついてクサビを打ち込み、サイドにフリーの選手を作って走りこみ。おそらく、真正FCとしては相手にこれだけボールを動かされ振り回されるのは初めてでしょう。CBの選手が前半で脚を吊っていたのがそれを物語っています。

後半は風上に立ったセカンドがこれでもかのゴールラッシュ。でも、そこでさらに評価を上げたのが真正FCの試合運び。負けている側の選手はヤケを起こしてプレーが荒くなってファールや退場者が連発とか、動けなくなってゴール前にべったり張り付いて試合が膠着したりになりがちなんだけど、この試合の真正FCは点差がつけばつくほどラインを上げてセカンドから得点を奪いに来た。それに対し、セカンドは「そういうラインの上げ方だとして裏を取られちゃうよ」とばかりに無駄なくゴールを重ねていく。後半だけで12ゴールが生まれるのですが、これだけの一方的展開にも関わらず、ファールでプレーが止まることがホントに少なかった。「セカンドの胸を80分（この大会は40分ハーフ）借り尽くす！」とばかりに圧倒的なカテ差のある相手にフェアに戦った真正FCは稀にみる“グッドルーザー”でした。試合終了後は、詰めかけた数人（笑）のセカンド・サポからも拍手とコールが真正FCに送られていました。

セカンドで特筆すべきは、今季から加入の田中智大。福岡ユース、福岡大を経てセカンドへ。セレクションで8点獲ったという話ですが、この日は9得点（公式サイトだと8得点）。裏に抜け出すスピードとタイミングと決定力、周囲の味方を活かす動きとパス。どれも一級品で、昔のアニメのセリフ「連邦のモビルスーツはバケモノか！」といった感じの無双ぶり。得点力に悩むトップチームからも羨望の眼差し？なんてね。

今季のセカンドは、ぎふ清流国体という1つの重要な“ミッション”を終え、社会人チームとしてリセットした形でシーズンに臨みます。この1試合を観ただけですが、チームの雰囲気もものすごく良さそうなのが嬉しかったです。セカンドの次戦は予定では2日（日）の13時から大垣南公園でテクノ渡辺との対戦です。ご期待ください。

（吉田鑄造）